



KOHO TOKUSHIMA

広報

とくしま

NO. 870

2012年 1月 1日

平成23年12月1日現在(前月比)

人口	257,641人	(+57)
男	122,373人	(+10)
女	135,268人	(+47)
世帯数	113,262世帯	(+63)
面積	191.62km ²	

ホームページ <http://www.city.tokushima.tokushima.jp/>
携帯 <http://www.city.tokushima.tokushima.jp/i/>



謹賀新年

平成24年元旦



▲ことし創立50周年を迎える徳島市立高等学校の生徒の皆さん=同校サッカー・ラグビーコート

新年のごあいさつ

明けましておめでとございませう。
市民の皆さまには、希望にあふれる輝かしい新年をお迎えるのことに、心からお慶び申し上げます。

昨年は、東日本大震災により、わが国に甚大な被害もたらされましたが、復興への取り組みの中で、人と人とのつながりを深める「絆」の大切さをあらためて実感いたしました。国をあげての復興が急がれている中、本市が取り組む被災地支援において、多くの市民の皆さまから義援金や救済物資などの温かいご協力をいただきましたこと、厚くお礼を申し上げます。引き続き、育まれた絆をより強固なものとしながら、被災地の一日も早い復興を願い、可能な限りの支援を続けてまいりたいと存じます。

また本市では、この大震災を踏まえ、近い将来発生が危惧されている東南海・南海地震などに備えるため、地震・津波に重点をおいた防災、減災対策の検討を進めており、施設の耐震化をはじめ、他自治体との相互応援協定の締結、高速道路を利用した避難場所の確保のほか、食糧などの備蓄物資の拡充、避難所の機能強化などの減災対策について、できることから迅速に取り組んでまいります。

こうした市民の皆さまの生命と生活を守る「備え」を確かなものとしながら、本市の将来を見据えたまちづくりにも全力を注いでまいります。徳島東部圏域の振興に向けた定住自立圏構想の推進をはじめ、徳島駅前への図書館の移転拡充や、阿波おどり・LED・豊かな水など、本市ならではの地域資源を活用したまちの魅力づくりにより、都市活力の創出や地域の活性化を図るとともに、将来を担う子供の育成などにも取り組み、目指す将来像である「心おどる水都・とくしま」の実現のため、一層の努力を重ねてまいります。

取り巻く環境は依然厳しいものがございますが、誰もが将来に希望を持ち、「このまちに生まれてよかった、住んでよかった」と安心して暮らすことのできる地域社会を、市民の皆さまとともに築いてまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が市民の皆さまにとりまして、幸せ多い年でありますことを心からお祈りいたします。

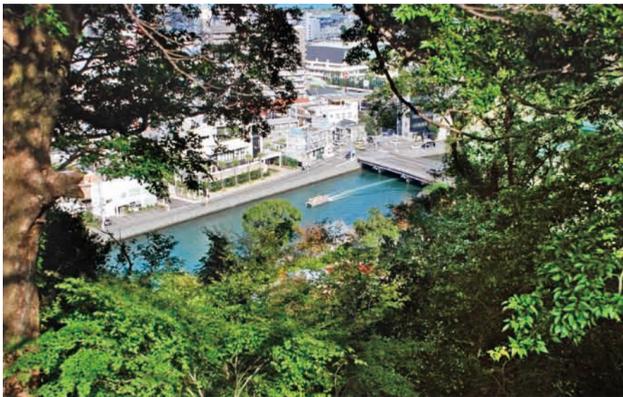
徳島市長 原 秀樹



▲三ツ合橋 10

魅力的な変貌が期待できる景観

昭和8年に架設された三ツ合橋は、3本の橋が中央で交差した全国的に見ても珍しいY字型の橋です。新町川と助任川が合流する川の分岐点に架かり、出来島、前川、田宮の三つの地域を結んでいます。「まさに水都を象徴する橋」と三ツ合橋の印象を語るのは、30年以上、ひょうたん島周辺の景観を生かしたまちづくりに携わってきた徳島県建築士会会長の佐藤幸好さん。「単純に二つの島をつなぐ橋はたくさんあるけど、このような複数の島をつなぐ橋はほかにはないですね。橋が架かるまでこの辺りは、江戸時代には渡し、その後賃取橋が架かるなど、歴史的にも人々の生活に根付いた貴重な場所で、今でも昭和の面影を色濃く残しています。また景観的にも川の分岐点は非常に特徴的な場所なんです。そこにこの三ツ合橋が存在するんだから、橋を含めたこの一帯はさらなる魅力的な空間に成長する可能性を秘めています」と三ツ合橋周辺の展望を語ります。



▲城山から望むひょうたん島周遊船 1



▲青石で整備された護岸 9

青石の護岸と藍倉のオブジェに阿波の国をしのぶ

新町川沿いをはじめ、ひょうたん島の護岸には多くの阿波青石が使われています。「青石が見せるあの爽やかな清涼感、ほんとは癒されますよね」とほほ笑むのは、「水都とくしま」を歴史的に探る展覧会を企画してきた徳島城博物館の根津寿夫学芸員。阿波特産の青石は、強度が高いことも特徴の一つで、江戸時代から城の石垣や川の氾濫を防ぐための護岸整備に、地元の良い質の青石が多く使われてきました。「今ある護岸は近代に積み直されたものがほとんどですが、青石の護岸は水都とくしまの魅力といえるでしょうね」と話します。

「水」の恩恵を受けて発展してきた水都とくしまに、もう一つ欠かせないものが「藍」。阿波藍は、江戸から明治時代にかけて徳島を潤わせ、新町川沿いの船場で開催された「藍大市」では、全国の間屋や仲買人でにぎわっていました。

藍場浜公園と西船場に架かるあいせん橋の西側には藍倉を模したオブジェがあり、「かつてこの辺りの両岸には船着き場があって、白壁の藍倉が立ち並んでいました。その景観は、徳島の繁栄を象徴する風景だったと思います。残念ながら徳島大空襲でほとんどが焼け落ち、今ではこのようなオブジェや古い写真に往時をしのぶしかないですけどね」と根津学芸員。川面に映える青石とオブジェを眺め、当時に思いをはせてみませんか。



▲藍倉を模したオブジェ 8



▲川から近い新町橋下の遊歩道 7



▲しんまちボードウォーク 6

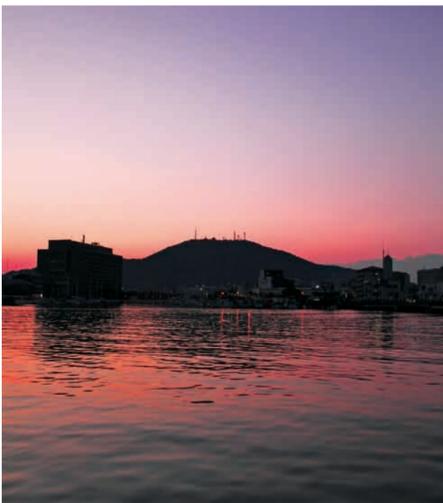
おしゃれな川沿いの景観を発信

「まちの中心部に、川とボードウォークが共存していて本当におしゃれな感じ」。県外出身の徳島経済研究所専務理事の田村耕一さんは、13年前に徳島市を初めて訪れたときの印象をこう振り返ります。

「あのころはボードウォークににぎわいがありましたが、だんだん寂しくなってきた…。絶好のロケーションという宝物があるのにもったいなくて、にぎわいを新たな魅力で復活させたいと思った」と、今ではひょうたん島周辺を活用したまちのにぎわいづくりに一役買っています。

新町川の魅力についても「川幅がいい。『おーい』と声をかけると、対岸に聞こえる距離。これってにぎわいづくりにちょうどいいんです」と力を込めます。

「川と眉山がある徳島の景観は、四国の県庁所在地を見ても抜群に優れています。この素晴らしいロケーションを全国に発信したいですね」。田村さんのにぎわいづくりへの挑戦はこれからも続きます。



▲夕暮れの眉山 5

▶両国橋に設置されたLEDアート「SORAとMIZU」 4

唯一無二の魅力をもつひょうたん島

「市民が川に愛着や誇りを感じるようになってきたんじゃないかな。川にとって一番大切なのは水でしょ。その水が他県と比べものにならないくらいきれいだから、みんな川を好きになって水辺を楽しむようになったんですよ」。NPO法人新町川を守る会の理事長として、22年前から川をきれいにする活動を地道に続けてきた中村英雄さんは、最近の川周辺のまちの変化をうれしそうにこう話します。

自ら周遊船を運営していることもあり、ひょうたん島周辺への愛着もひとしおの中村さん。幅広い活動で県外へ出向くことも多いことから「手が届くぐらい川が近く、親水性があるところは、ほかの地域では見られない大したもの。それに、川の近くに公園がたくさんあるのもひょうたん島ならではのことでしょ」と、唯一無二の魅力について熱く語ります。「こうした魅力に市民が気づいて、楽しんでもらうことが大切。やっぱり住んでいる人が楽しいまちは、誰が行っても楽しいですからね」。



▲LEDが点灯する中徳島河畔緑地 2



▲万代中央ふ頭から見る朝日 3

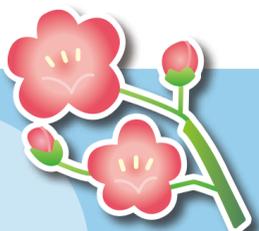


LEDの光でひょうたん島の魅力が無限に広がる

徳島市は、水の魅力にLED(発光ダイオード)の「光」の要素を加えた新たな魅力をもつ水都とくしまの創造に取り組んでいます。ひょうたん島周辺の公園や橋には、LEDのアート作品やモニュメントが点在し、一昨年には、徳島LEDアートフェスティバルを開催しました。

同フェスティバル実行委員会のメンバーとして、フェスティバルの計画立ち上げから関わってきたNPO法人コモンズ代表理事の喜多順三さんは、「見慣れた風景や物に新しい意味や価値をつくることのできる光には、まちの新しい魅力を生み出す可能性があると思うんですよ。光を生かすのに有効なのが『闇』と『水辺』。徳島には、良質な闇と豊かな水辺が広がっています。だから、ひょうたん島周辺はLEDの光が映える格好の舞台なんですよ」と、この場所とLEDの相性の良さを実感した様子。

来春には再びこの周辺で「徳島LEDアートフェスティバル2013」が開催される予定で、その手始めに4月20日から3日間、イベント「HOP」として、LEDのアート作品の展示や多彩な催しが行われます。喜多さんは「LEDの光によって、まちの魅力がどのような広がりを見せるのか。今から楽しみ」と話しています。



新春特別企画「水のあるこのまちをもっと好きになる」ひょうたん島が魅せる「水都とくしま」再発見!

2012年。新しい年の幕開けです。古くから水の都と呼ばれるほどに水に恵まれ、水とともに発展してきた徳島市。138本もの川が流れるこのまちには、素晴らしい水辺空間が数多く存在します。現在本市ではこの豊かな水辺の魅力を最大限に生かし、水都とくしまを全国へ発信する「おどる水都・とくしま発信事業」に取り組んでいます。中でも本市の中心部にあり、多くの市民から「ひょうたん島」の愛称で親しまれている新町川と助任川に囲まれた「帯を、水都とくしまを象徴する場所」として、重点的に整備を進めています。そこで、新春号となる今号では「水のあるこのまちをもっと好きになる」をテーマに、ひょうたん島周辺の「水辺」の魅力や、ゆかりの深い人たちの話と写真を交えて紹介します。新年を迎えるにあたり、ひょうたん島に凝縮された水都とくしまの魅力をあためて感じてみませんか。

ひょうたん島とは



徳島市の中心部に位置し、上空から見ると、新町川と助任川に囲まれた中洲が、ひょうたんの形に似ていることから、市民に「ひょうたん島」の愛称で親しまれています。

ひょうたん島の外周は約6km。鉄橋や水管橋を含め22の橋が架かり、周辺には親水公園や河畔緑地、遊歩道などの公共空間が整備されています。

また、1周を約30分で巡る「ひょうたん島周遊船」の運航をはじめ、「徳島LEDアートフェスティバル」の会場になるなど、本市の観光やイベントの舞台となっています。

徳島市イメージキャラクター決定！
キャラクターの名前を募集します



【キャラクター紹介】水とともに発展してきたまちをイメージしたサカナの女の子。振り袖の阿波おどりの衣装に、市の花「サクラ」の花飾りをつけています。「明るく楽しく」がモットーです。

「徳島市イメージアップキャラクター」を決める総選挙の結果、最優秀作品が右のキャラクターに決定しました。

今後、まちの「顔」となつて、徳島市の魅力を全国に発信するこのキャラクターの名前を次のとおり募集します。

100年後も愛され続ける私たちの仲間になさわしい名前をお待ちしています。

【募集期間】1月20日(金)まで(当日消印有効)

【応募方法】▼応募箱へ投かんし応募用紙などに必要事項(※)を記入して、市役所1階に設置する応募箱へ投かんしてください(土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時)▼郵送またはファクスII応募用紙やはがきなどに必要事項(※)を記入し、郵送またはファクスで企画政策課へ送付してください

〒770-0857 幸町2-1-5 (024)0164-8 徳島市ホームページから応募II徳島市ホームページ上でパソコンや携帯電話から応募を受け付けます。

※必要事項II①キャラクターの名前②名前の説明③住所④名前⑤性別⑥年齢⑦電話番号

一人何点でも応募できますが、応募用紙など1枚につき1作品とします。

【賞など】最優秀賞受賞作品の応募者一人に、1万円分の図書カードを贈呈します。採用作品の応募者が複数の場合は抽選で決定し、抽選に外れた応募者には記念品を贈呈します。

そのほかの応募者の中から、抽選で50人に、徳島市イメージアップキャラクターの限定グッズを贈呈します。

【選考・発表】選考委員会で選考。結果発表は2月13日を予定しています。

詳しくは、市役所1階で配布しているチラシまたは徳島市ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】企画政策課 (024)50085

内容日時員定員準備物場所対対象者費用(表記なしは無料)申し込み方法問い合わせ先電話番号/ファクス/HPホームページ/メールアドレス/電子申請可市ホームページ「電子申請」から申し込み可

とくしま 掲示板

募集

博物館美術史アカデミー「華麗なる琳派の魅力」

Table with 3 columns: 開催日, 内容, 講師. Includes dates like 1/28 and 1/29, and names like 岡野智子 and 中部義隆.

※時間はいずれも13:30～15:00

員70人(抽選) 費2,000円(入館料含む)

往復はがきに講座名、住所、名前、電話番号、返信宛名を記入し、1月17日(火)(必着)までに、徳島城博物館(〒770-0851 徳島町城内1-8 656-2525)へ。



くらしの講座

1月23日(月)13:30～15:00 内町公民館会議室(アミコビル5階) 加渡いづみさん(ファイナンシャルプランナー)の講演「知っておきたい災害のお金の知識」市内在住の人員40人(先着) 消費生活センター(625-2326)

リフォーム講習会

1月27日(金)13:00～16:00 内町公民館会議室(アミコビル5階) 残り毛糸でマフ

ラー・カラーなどを作りましょう」市内在住の人員25人(抽選) 糸、糸に合うかぎ針、はさみ、ものさしなど

往復はがきに、講習会名、住所、名前、電話番号、返信宛名を記入し、1月19日(木)(当日消印有効)までに、消費生活センター(〒770-0834 元町1-24 625-2326)へ。

藍染通信文化講座「藍草から七色を染める」

基本コースは3月～12月開講全10回で、経験者向けの研究コースは全5回です。講師は、自然染色研究家・アキヤマセイコさん。

両コースで50人(先着) 両コースとも31,500円(テキスト・材料費含む)

所定の用紙を1月11日(水)以降に、ファクスでシビックセンター(626-0833)へ。電話(626-0408)でも受け付け。

赤ちゃんガラス製記念品制作

1月29日(日)9:00～12:00/13:30～16:30 徳島ガラススタジオ(勝占町中須) 赤ちゃんの足形や手形のガラス製品を制作 足形=3カ月～/手形=1歳～ 各10人(先着) 1個4,000～5,000円 同スタジオ(669-1195)

催し

阿波おどり会館新春特別公演

1月2日(振休)・3日(火)13:00～と15:00～の2回(各50分間) 阿波おどり会館 有名連による阿波おどり公演。出演は2日=新ばし連(写真上)、3日=阿波扇(写真下) 大人500円、小中学生250円(公



演開始1時間前から2階ホール前で発売) 同会館(611-1611)

徳島城博物館新春イベント

★新春獅子舞と南京玉すだれ 1月3日(火)11:00～11:15 =和太鼓グループ「藍吹雪」による獅子舞 13:00～16:00 =「ケンちゃんファミリー」による南京玉すだれ(館内で複数回公演) ★七草がゆ 1月6日(金)11:30～13:00 先着100人に七草がゆを提供します。 ★百人一首かるた大会 1月8日(日)9:30～16:00 同館の「かるた教室」を受講した子どもたちがかるたの技を競い合います。観戦自由。徳島県かるた協会の模範試合を13:00から実施。 ★新春投扇興大会 1月9日(祝)13:30～16:00 (受け付けは12:00～) 江戸時代から伝承された新春の遊び「投扇興」を体験しよう 小学生以上

★企画展「阿波の鉄砲」記念講演会 1月14日(土)13:30～15:00 坂本憲一さん(徳島県銃砲刀剣審査委員)の講演「阿波の火縄銃」 ※いずれも参加は無料ですが、入館料が必要です。 同館(656-2525)

消防出初め式

1月8日(日)9:30～12:10 場アスティとくしま 屋外では、しょうちゃん号・スノーケル車・起震車の搭乗体験、多数の消防車による祝賀放水、徳島県消防防災ヘリコプターによる祝賀飛行を実施。屋内では、古式はしご操法、消防団ポンプ操法、市民参加による地震防災夕

おしらせ

はたちの献血キャンペーン 1月2日～2月29日

冬は輸血用の血液が不足しがちです。新成人をはじめ、多くの市民の皆さんの献血への【献血の実施場所】

献血ルームアミコ(JR徳島駅前アミコビル3階)=火曜日を除く毎日9:30～13:00、14:00～17:00(1月1日(祝)は休み) 県赤十字血液センター(庄町3)=月・土曜日を除く毎日9:00～16:30、第3木曜日は9:00～19:00(1月2日(振休)は実施) 移動採血車=県内各地を巡回。場所などは県赤十字血液センター(0120-688-994または631-3200)へお問い合わせください。 保健センター(656-0529)

国保料・後期保険料の納付はお済みですか

1月を「国民健康保険料、後期高齢者医療保険料収納率向上特別対策月間」とし、保険料の未納世帯に夜間電話催告などを実施します。また、1月29日(日)9:00～16:00、保険年金課(市役所1階)で、納付や納付相談ができる窓口を開設します。当日は、東側出入口からお入りください(正面玄関は閉鎖)。車でお越しの場合は、市役所東側駐車場(JR線路沿い)をご利用ください。やむを得ない事情などで納付が遅れている場合はご相談ください。 同課(621-5165、5384)

農業委員会委員 選挙人名簿登録を受け付け

1月10日(火)まで 農業委員会(市役所3階) 1月1日現在徳島市に住所を有し、20歳以上(平成4年4月1日以前生まれ)で、次のいずれかに該当する人。 10以上の農地で耕作の業務を営む人。その同居親族または配偶者で年間おおむね60日以上耕作に従事する人。 10以上の農地で耕作を営む農業生産法人の組合員、社員または株主で、年間60日以上耕作に従事する人。 農業委員会事務局(621-5394)、選挙管理委員会事務局(621-5373)

1月の休日窓口 (毎月第2・4日曜日) 8日(日)・22日(日)8:30～12:00 市役所1階 住民票・戸籍謄抄本の交付、印鑑登録、住民異動届など さわか窓口相談室(621-5039)

祝日のごみ収集 1月9日(月)は平常どおり収集します。 市民環境政策課(621-5217)